

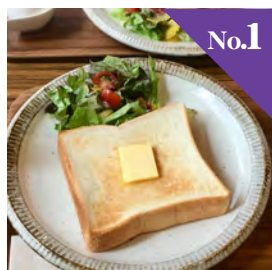
関係人口が生み出す地域の 「化学反応」

少子高齢化が進む昨今、地域における交流人口以上・定住人口未満の関係人口が注目されている。総務省では、関係人口について、移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指す、としている。例として、行き来する人「風の人」、地域内にルーツがある人（近居・遠居）、何らかの関りがある人（過去の勤務や居住、滞在等）をあげている。

様々な「関係」を持つ人々を創出・拡大していくことが、重要だとしているわけだが、まちづくりにおいては、地域に興味を持って入り込み、まちづくりに多角的に寄与する人に注目したい。

地域の中にこのような関係人口が入り込むことで、今までにはなかった化学反応とも呼べる変化が生じることがある。地域の魅力を地道に、丹念に発信していき、興味を持った人が徐々に関係人口として地域に入り込むことで、従来とは異なる新たな視点からのまちづくりを展開することが可能となる。こういった関係人口による「化学反応」は、様々な地域で見受けられ、今後より注目すべき点である。

今回の特集では、まちづくりにおける、関係人口による「化学反応」について紹介するとともに、我々まちづくりコンサルタントとしての地域との関わりについて考えてみたい。



目次

特集

No.1 → 02 商店街の化学反応 関わり合うまちへ

No.2 → 03 シティプロモーションにおける関係人口の「化学反応」

No.3 → 05 なごのキャンパス 地域に長年愛された旧小学校施設活用の一ケースとして

No.4 → 06 まちづくりコンサルタントとしての地域との関わり ～真の働き方改革～

SPACIA レポート

07 名駅南地区まちづくり協議会 メイエキサザンクロスを目指す取り組み

08 高島屋南地区市街地再開発事業 施設建築物（再開発ビル）新築工事 起工

09 あいたて博とイケフェス大阪 ～建物公開の取り組み～

10 「駅西あさごはん」という社会実験

視察レポート

11 都心歩行空間の最近事情【USA ニューヨーク&ボストン】

・ 所員紹介／業務内容／スペースの歩み／情報発信

社外報 ラバダブ

RUB-A-DUB

January 2020 Vol.23

発行：(株)都市研究所スペース